

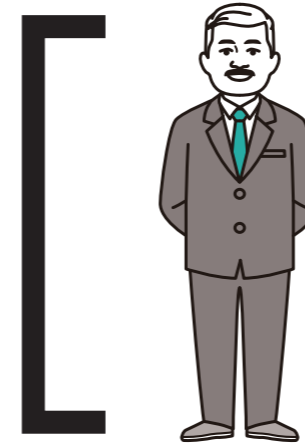
# 屋内商業施設感染症対策コンソーシアム

Regarding our policies in proevention of spreading of  
**COVID-19**  
正しい理解と対策を



屋内商業施設感染症対策  
**基本4対策**

京都大学レジリエンス実践ユニット 監修



## CONCEPT

バランスの取れた「適切な経済活動」と  
「正しい感染症防止対策」の実践。

連日放送される感染症対策ですが、今や情報があふれ、中には間違った対策、意味のない対策もあります。ここでは、持続可能な社会を構築するため、それらを科学的に検証し、今後起こりうるリスク等へ対応準備などを呼びかけるとともに、屋内商業施設の利用者および事業者が安全かつ安心できる環境を目指し、正しい理解を深め、正しい対策を発信していきます。



科学的根拠に基づく適切な感染症対策の推進と発信をおこなうため、京都大学レジリエンス実践ユニットと連携し、屋内商業施設を展開する企業や団体との協力を図りながら、産学連携のコンソーシアム(共同事業体)＝「屋内商業施設感染症対策コンソーシアム」に取り組み、社会全体に向けて、正しい理解と対策の普及を目指しております。

## 屋内商業施設感染症対策「基本4対策」

Regarding our policies in proevention of spreading of COVID-19

### 基本4対策①

#### 「マスク」を着ける

あるいは「会話をしない」  
「咳エチケット」はもちろん必須



### 基本4対策②

#### 「目鼻口」を触らない

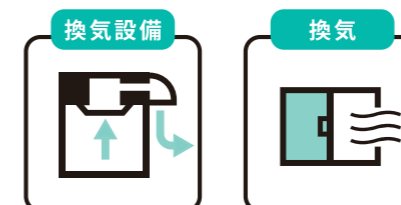
万全の備えとして、こまめな  
「手洗い」「手指の消毒」の対策を推奨



### 基本4対策③

#### 「換気」の徹底

空気循環で  
空気感染がほぼゼロ



### 基本4対策④

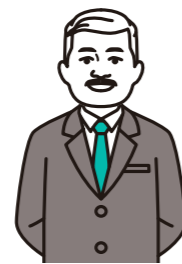
#### 飲食や喫煙の時

マスクを着用できない状況での  
「飛沫対策」は話さないこと



## GREETING

京都大学レジリエンス実践ユニット ユニット長



**藤井 聡** 京都大学大学院工学研究科・教授  
**SATOSHI FUJII**

東日本大震災やリーマンショックによる経済危機を経験した今、わたしたちの社会に最も求められているものは、巨大自然災害や世界的経済金融危機などの様々な「危機」に対する「レジリエンス」(resilience、強靭さ)を如何にして確保するのか、という点です。この「レジリエンス」とは、弾力性ある「しなやかさ」を言うものです。すなわち、様々な外力が加わっても、致命傷を受けることなく、被害を最小化し、迅速な回復を果たす、その社会の力こそが、レジリエンスとなります。

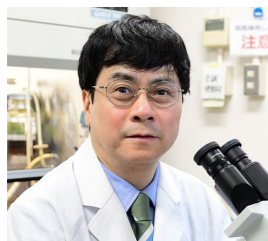
そして今、新型コロナウイルスの感染拡大に対して私達に求められているのも、やはりこの「レジリエンス」なのです。すなわち、いわゆるコロナ禍と呼ばれるものの被害を最小化し、その被害を迅速に回復させるためにも、バランスの取れた「適切な経済活動の維持」や「行動自粛を含む感染防止対策」を、政府の十分な補助・支援の下、行っていくことが求められているのです。

本ユニットでは、こうした認識の下、ウイルス学研究の第一人者である宮沢孝幸博士(プロフィールは下記を参照)を准教授としてお迎えし、共同で研究・議論を重ねながら、行動自粛や感染防止対策について、啓発・啓蒙を行うことで屋内商業施設の利用者や事業者が安全かつ安心できる環境を構築していきたいと考えています。



京都大学大学院工学研究科教授 / 表現者クライテリオン編集長  
1968年奈良県生まれ。工学博士。京都大学卒業後、同大学助教、東京工業大学教授等を歴任し、京都大学大学院工学研究科(都市社会工学専攻)教授、京都大学レジリエンス実践ユニット長。第二次安倍政権では内閣官房参与(防災・減災ニューディール政策担当)も務める。専門は、都市・国土計画、経済政策等の公共政策論および実践の人文社会科学研究。

京都大学レジリエンス実践ユニット ウィルス学担当



**宮沢 孝幸** 京都大学レジリエンス実践ユニット 准教授  
**TAKAYUKI MIYAZAWA**

1964年東京都生まれ。京都大学レジリエンス実践ユニットウイルス学担当 准教授。附属感染症モデル研究センターウイルス共進化研究分野主宰。ウイルスと宿主の共進化を主に研究。内在性レトロウイルス学専門。

